

## 【能登原学区】（仮称）千年小中一貫教育校（義務教育学校）の整備に係る地域説明会 概要

【日時】 2017年（平成29年）11月29日（水） 19:30～21:20

【場所】 能登原公民館 大会議室

【出席】 参加者 35人（傍聴2人を含む。）

行政 14人（教育次長，管理部長，学校教育部長 他）

報道 3社

【内容】 1 開会

2 あいさつ（教育次長，能登原学区自治会連合会長）

3 （仮称）千年小中一貫教育校（義務教育学校）の整備について

（説明：学校再編推進室長，学校再編推進室主幹）

4 意見交換

5 閉会

### あいさつ

#### 教育次長

- ・教育委員会では，少子化の問題を踏まえ，学校規模の適正化に取り組んでいる。本市では，1980年（昭和55年）当時から，子どもの数は約4割も減っているが，学校数はこの30年間ほとんど変わっておらず，学校の小規模化が進んでいる。一定の集団規模による教育を基本とする学校において，子どもの数が少ないことによる課題が顕在化している。
- ・多くの友達と学び合いながら，子どもたちにこれから必要となる力を付けていくためには，学校の規模を適正化する必要がある，望ましい規模にすることで教員体制も充実する。また，ICT機器（情報通信機器）の整備や学校施設の老朽化への対応等，教育予算をどのように使うかが，今後問われてくる。市全体の学校配置を見直すことにより，各校に予算を効果的に投入していきたい。
- ・本市では，小中一貫教育の取組を始めて3年目になる。今は，小中連携型の取組を行っているが，小中一貫教育を進める上で，施設が一体となった義務教育学校は教育効果がより高まり，望ましいと考えている。義務教育学校は1年生から9年生までの子どもに，一つの学校として9年間を見通した教育を行っていくことができる。
- ・能登原小学校を含む沼隈地域の小・中学校と内海地域の小・中学校，7つの学校を，現在の千年中学校の位置に新しく整備する計画を出した。この義務教育学校を，子どもたちにしっかりと力を付けていくことのできる全国に誇れる学校にしていきたい。

#### 能登原学区自治会連合会長

- ・今日は，教育委員会だけではなく，市長部局や沼隈支所の方にも出席いただいているので，しっかりと説明をしていただき，検討を加えていきたいと思う。

### 意見交換（出席者から出された意見等）

#### 学校再編・義務教育学校に関すること

○学校がなくなればいいと思っている人はおらず，地域に学校があるに越したことはない。しかし，子どもの数の減少により，男女比のバランスが悪い（同じ学年に女子が1人だけ）などを理由に，他校に通わせている実態もあり，数年先を考えると限界を感じる。子どもたちが良い教育を受ける環境が何よりも大事であり，必要である。

→ (回答)

再編し、広がった校区において、学校と家庭、地域、教育委員会が協働し、子どもたちの学びを支え、一人ひとりの可能性や能力を引き出していくことのできる教育環境にしていきたい。新しい学校を、保護者や地域の皆さんと一緒に作っていきたい。

○内海・沼隈全体となると、学区がかなり広がる。「子どもだけで学区から出るな」と学校で決まっております。千年小学校の保護者は、今も広い学区のため子どもがどこに行くかわからず、GPSを持たせている状況も多いと聞く。内海まで広がるとなると、保護者の負担もかかると思う。低学年の間は、広い範囲を学区にしなくてもいいのではないかと。

→ (回答)

学校において「生活のきまり」などにより、「学区から出る時は保護者と一緒」等の約束事を学校ごとに決めている。「行き先や帰る時間を家の人に伝える」「自分の身は自分で守る」といった自律心を育てる観点も必要である。子どもたちの活動範囲や時間などを定め、それを守ることに ついても話し合い、決めていかなければいけないと考える。

○「学区から出てはいけない」と言われても、親に内緒で行ってしまう子もいるかもしれない。行き先を告げて行くと言っても、両親が仕事に出ていて家にいない家庭も多い。  
○千年中学校の生徒は、内海に結構行っている。上級生が行っているなら、自分たちも行ってもいいと判断するのではないかと。

→ (回答)

学年に応じて行動できる範囲を決めて、学校でも家庭でも教えていく必要がある。上級生について行くこともあるかもしれないが、子どもたちの生活上のルールを決めて、しっかりと大人が教えていかないといけない。子どもが自分の身を守れるのかなど心配もあるだろうが、子どもの体力等も含めて、大人が考えていかないといけない。

○今は地域の方が、どこの子どもだと認識して下さるが、範囲が広がると、どこの子どもかわからなくなる。

→ (回答)

義務教育学校では、広がった校区において、地域に出向き、地域の方から学ぶ教育活動を積極的に行っていく。現在の地域の子どもたちはもちろん、義務教育学校の子どもたちを地域の子どもとして見守っていただけるよう、協力をお願いしたい。

#### 教育環境・教育内容に関すること

○「異文化への寛容性・耐性を持って人との関係を尊重できる子ども」が目ざす子ども像とあるが、これはどこでも通用するような理念である。沼隈に義務教育学校を設立するという独自性、郷土に誇りを持ち、ふるさとを愛し地元へ貢献しようといった人材を育てる等の理念を持ってほしい。  
○自己肯定感と同じように、郷土を愛することで自尊感情が育成され、自分の地域を愛して始めて他の地域の良さを認められる。自分を愛し、自分が認められている子どもは他人を傷つけないし、いじめない。人づくりの中に地域性を盛り込んでほしい。沼隈半島一帯の中で郷土を愛する子どもを育て、郷土の良さを守っていこうとする人が育つのではないかと。

→ (回答)

ふるさとへの愛着や誇りを一番の根底に据えて、小中一貫教育を進めてきている。子どもたちが育ち成長していく過程の中で、自分自身の生きるよりどころとして、自分の生まれ育ったまちや地域の皆さんとのつながりがある。これらを支えにしながら、たくましく成長してほしいと考えている。

そのことを、今後、義務教育学校の構想に、一層はっきりと打ち出していく。ふるさと学習も義務教育学校になると、新しい教科を作って学習するなど様々な取組ができる。地域の特色を十分活かし、子どもたちに、ふるさとへの愛着と誇りを育くむことができるよう、教育内容を創造していく。

○「知識や経験をつながえながら考え、新たな学びを展開する力を持った子ども」「異文化への寛容性・耐性を持ち、人との関係を尊重できる子ども」「心身ともに健康でチャレンジ精神にあふれる子ども」の育成は、大規模校にならないとできないことではない。今の教育ではできていないのか。

→ (回答)

義務教育学校を計画するにあたり、子どもたちが、将来どんな社会で生きていくのかをふまえ、どのような力を付けていかなければならないのかを考えた。今の学校教育の中でできていないのではなく、今まで以上に求められるようになってきている力(課題発見・解決力、挑戦する力、コミュニケーション能力、粘り強さや思いやりの心)を、9年間の新しい教育の枠組みの中で育てていきたい。

小規模校には小規模校の良さがあるが、コミュニケーション能力や他者との折り合いを付ける力などを身に付けていくには、一定の集団規模が必要である。学校でも様々なことが起こる。未然に防ぐことも必要だが、起こった時に周りの支援の中でどう乗り越えていくのかということが問われる。様々な人の中で揉まれ、時には傷つき、傷つけることもあるかもしれないが、そういった中で、我慢や思いやり等、多くのことを経験させながら学ばせ、必要な力を身に付けさせたい。友達との様々な関わりを通して成長できるように、教職員も、子どもたちの様子や変化を丁寧に見ていきながら、必要な指導をしていく。

義務教育学校を整備することで、教育内容や教育環境の充実を図り、目指す子ども像に示している子どもを育てていく。

○「小規模校では学習効果が十分に得られない」とあるが、小規模校であれば先生も学習に力を入れてくれていると思う。

→ (回答)

学力をどのように捉えるかということはあるが、全国学力・学習状況調査等の結果で過去6・7年を見ると、小規模校だから相対的に高い・低いというデータは出ておらず、年度や教科によって結果は違う。

読み書きや計算の力だけではなく、自分と違う考えに触れ、その考えを認め、自分の考えをもっと広げていく力も求められている。様々な考えに触れ、自分の考えを深めていけるような学びの環境を整えていきたい。

○一定の規模がないと、満足な教育を受けることが難しいのはよくわかる。部活動ができないから、内海中学校から千年中学校に通っている子もいる。

○スクールバスが登校時1便・下校時2便とあったが、小学生(前期課程児童)がクラブ活動に参

加する際、バスの時間が決められていれば、帰りの時間を気にして活動に支障が出ると思う。学業面に関してはプラスになると思うが、それ以外の面で大きなマイナスが生じる。

→ (回答)

前期課程の児童と後期課程の生徒と一緒に部活動をする場合は、別にジャンボタクシー等を準備するなど、状況に応じて対応を考える。

## 防災に関すること

○千年中学校付近の海拔は0.5m。福山市の地震による死者数は、大半は津波によるものと予測されている。千年学区からも地盤を嵩上げする要望が出ていると聞く。

○地震発生後4時間半で津波がくるので、地域住民に2時間は近所同士を確認し、その後高台へ避難することを言っている。

○水道は千年から、電気は鞆と千年から来ている。ライフラインはどこかで寸断されたら、その先の地域には来ない。

○山南川の堤防に穴が空いているとの話もあり、どこまで補強されているかも気になる。大潮の満潮時に地震が発生し、山南川の堤防が決壊したら逃げられない。

→ (回答)

人の命が第一だと思っている。地盤全体嵩上げすることは、周辺道路や住宅地との兼ね合いから難しいが、新築校舎・体育館の床の高さをどうするかなど、防災対策について、基本設計の段階で具体化し、対応していく。

災害時に子どもたちが全員安全に避難できるように、新しい学校においても、避難訓練や防災訓練を行い、自分の身を守る意識も育てながら、子どもたちの安全確保に取り組む。新しい校舎は強固な建物として建設するとともに、安全に十分留意して整備していく。

→ (追加回答)

山南川の堤防の穴については、現在県に修繕要望をしているところである。また、千年中学校付近の山南川の堤防の耐震対策については、1997年度(平成9年度)から2006年度(平成18年度)までの間に、河川管理者である県において、堤防の耐震対策工事が行われたことにより、一定の耐震化が図られている。

## まちづくりに関すること

○現実には、相当な配慮がある。学校の再編はやむを得ないと思うが、学校がなくなれば地域に色々な課題が出てくるし、コミュニティも希薄になる。行政にも十分に考えてもらい、話し合いも持ってもらわないといけないが、行政に頼るだけではなく、我々も新しいコミュニティのあり方を考えていかないといけない。

→ (回答)

教育のことで併せて、地域活性化についても、地域の皆さんと話し合いをする場を別に設けさせていただき、行政と地域と一緒に知恵を出し合い、考えていきたい。

○小学校がなくなると、能登原に住んで子どもを育てる人がいなくなり、過疎化に向かう。子育て世代がここに住んでもいいという状況を作るしか解決方法はない。

- 住んでいる人たちがふるさとをどう愛するかが大事。このまちを少しでも良くしていこうとか、生まれ育った所に誇りを持つといった人づくりができて、始めて活性化できる。
- 能登原に住んでいても立派な学校に行かせることができ、スクールバスで安全配慮もされていれば、自然も良くて、歴史・文化や伝統もあり、人情が厚い能登原に、子育て世代が住んでくれると思う。
- 沼隈全体が活性化するような学校づくりをしてほしい。新しい学校へ能登原から高齢者が子どもを見に行けるようなシステム等も、みんなで知恵を出し合っていけたらいいと思う。子育て世代は、広い視野で子どもを育てることを望んでいると思う。

→ (回答)

地域から学校がなくなることは大きな問題であるが、未来を担う子どもたちの教育環境を整え、より良い教育を展開していくことが必要である。

子育て世代が能登原に住みながら、子どもたちは義務教育学校で教育を受け、まちづくりや地域活性化を継続していく。どのような手法であれば実現できるのか、市民局や経済環境局等関係部局とも連携し、魅力ある学校づくりとともに、魅力あるまちづくりとを目ざしていきたい。皆さんと意見交換をしながら一緒に進めていきたい。

- 跡地利用方法はどのように考えているのか。
- 学校の体育館もまだ使えるので、管理人を置いていただくとか、空き校舎が荒れず、地域が使えるような方策を盛り込んでほしい。

→ (回答)

屋内運動場とグラウンドは社会体育施設、避難場所として引き続き利用していただく。

どのようにまちづくりをしていくのか、地域振興策を進めていくのか、地域の皆さんの思いを聞きながら、市民局等関係部局、教育委員会と一緒にあって皆さんと話をしていきたい。行政として何ができるのか、学校の跡地をどのように活用していくのかなども一緒に話をしていきたい。

- 能登原公民館はこのまま残るのか。避難所の体育館がある小学校跡地に移されるのか。

→ (回答)

再編で義務教育学校となり、学校の校区は広がるが、まちづくりの単位は従来通りで、基本的に変更はない。まちづくりの単位としての学区と、義務教育学校の学区とは分けて考えてもらいたい。公民館は、従来どおり、現在の小学校区単位で維持していく。